

浦舟だより

令和8（2026）年 6月 1日

第 3 号 （第317号）

横浜市立浦舟特別支援学校
E-mail: ysurafun@edu.city.yokohama.jp

今日の教育に求められるもの

校長 和内 正也

令和8年度がスタートして2か月が経過しようとしています。まずは知り合うこと、慣れることが大切です。ゴールデンウィークで一息つくことができ、緊張感も解けてきて、そろそろ生活のリズムがつかめてきた頃なのではないでしょうか。

今回は次の言葉を紹介したいと思います。

人に魚を与えれば一日で食べてしまいが、人に釣りを教えれば一生食べていける。

老子（今より2500年ほど前の中国の思想家）の言葉として紹介されることが多いのですが、正確な出典については諸説あり、古くからの中国の格言や、西洋のことわざに由来するとも言われています。この言葉の意味を考えてみましょう。

飢えて困っている人を救うには食べ物＝「魚」を与えることが必要でしょう。しかしその場の空腹は満たせても、また飢えてしまう可能性が高そうです。釣りを教えることによって、食べ物を自分で獲得できるようになり、経済的に自立することができます。老子の言葉だとすれば、いぶん昔からある言葉なのですが、今日でも有意義な内容だと思います。また今、教育で求められる「生きて働く知識・技能」も、そういう考え方なのではないかと思っています。

ある種の試験では知識が求められるため、暗記法的な学習の成果が問われます。でも人間が「機械的に」暗記するには限界があり、現在の私たちの手元にはスマホその他の情報機器があります。知りたいことは検索してすぐわかるので、細かい知識を覚えることが絶対に必要、とは思えません。

身に付けるべきことは基盤となる知識・技能、それらを土台にして自分で調べる力、規則性・関連性等の法則を見出す力、そして新しいアイデアを思いつく力、最終的には自分の人生を切り開く力と考えます。魚を並べたてるのではなく、釣り方、自分なりの獲得方法、栽培漁業などの持続可能な資源確保、さらにその先へと考えをめぐらせることができたら、たいしたものです。



ミズバショウの花

妙高高原 いもり池 2026.5.4

変化の激しい、予測が難しいこれからの社会を生き抜いていく子どもたちのために、基礎的な知識・技能の上に、自分できちんと考える力、獲得した知識・技能を様々な状況に応じて使いこなす力、自分で生きる力を身につけさせることをめざせているか、日々の授業や活動、子どもたちとの関わりを振り返ることができる学校でありたいと思います。

作品介绍

～本校・センター院内学級～

紫陽花も色づき始め梅雨の訪れを感じ始めました。朝晩の気温差が大きい時期なので、体調管理に気を付けながら元気に過ごしたいと思います。



図工・美術 「てるてる坊主作り」

～福浦院内学級～

雨の季節を前に、てるてる坊主を作りました。お花紙を加えると子どもたちの想像力が膨らみ蝶ネクタイや羽やマントが付いたもの、フルーツてるてる坊主に三色団子てるてる坊主まで…イメージの広がりは無量大です。



図書朝会

5月1日に図書朝会がありました。学校司書が図書館の使い方、本の探し方をクイズ形式で教えてくださいました。

その後、『ぞうのエルマー』の読み聞かせがありました。パッチワーク柄のゾウであるエルマーの愉快なおはなしをみなさんよく聞いていました。

作品介绍&授業の様子

～訪問指導学級～

・児童生徒の授業の様子や作品を紹介します。



小5『フラワーボックス』



中2『理科の実験』

6月の予定

1日(月) 全校朝会

2日(火) 開港記念日(閉庁日)

今月のスクールカウンセラー来校日は

18日です

その他の予定は、各院内学級よりお知らせします

浦舟における4月のいじめ件数は 0件でした。